

山西省絶景探訪③

豊田美紀

山西省絶景探訪③

豊田美紀

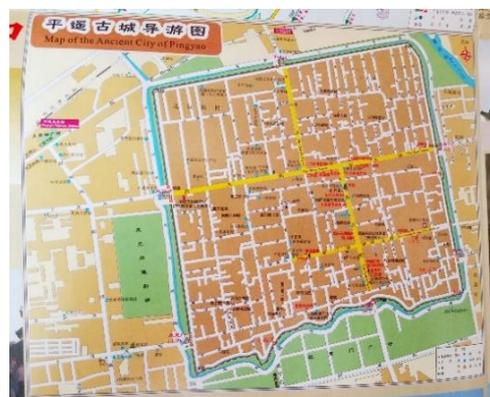
12月になりました。こちらでの暮らしも4カ月目を迎えております。寒さも一段と厳しくなり降雪もありました。人生初めて気温マイナス17度というものも体験しました。人間という生き物は意外にも適応能力があるものなのですね。慣れるものです。今期クラスも終盤戦に差し掛かっております。来月早々には期末試験が控えているところです。

さて、今月のレポートでは山西省絶景探訪の第3弾として平遥古城(へいようこじょう)についてお話します。高铁の平遥古城駅からはタクシーで向かうのが便利かと思えます。平遥古城駅は山西省の有名な観光地の最寄り駅ということもあってか雰囲気も素敵な佇まいです。写真を載せておきます。

平遥古城は1997年に世界文化遺産登録されました。明代の城壁がほぼ完全な形で保存されている中国唯一の街であることがその理由とされています。現存する城壁は明代を基礎として清代に補修したものということです。整然と積まれた煉瓦の城壁が約6kmにわたって巡っています。分かりやすいように平遥古城の観光地図を載せます。平遥城はほぼ方形になっていることがお分かり頂けるかとます。別名を亀城といいます。

平遥古城の城壁内に一步足を踏み入ると、明清の時代にタイムスリップしたような感覚になります。まるで自分が歴史映画の舞台に佇んでいるかのような心地がします。ここには100年以上も昔の伝統的民間建築が数多く残っています。そして今も城壁内では人々が普通に暮らしています。この特徴ある建築物は、平遥で始められた票号と呼ばれる為替業務で蓄財した商家によって建てられたものということです。伝統的民間建築物が商店になっており、またカフェやレストランも沢山あります。そして宿泊施設として利用されている場所もあります。

ここは、悠久中国の歴史を感じられる場所でもあり、買い物や食事を楽しめる場所でもあります。悠久の歴史に思いをはせながら、中国の伝統文化を感じる小物や雑貨を眺めることが楽しかったです。レストランでは伝統的な麺を作っている職人の実演を見ることもできます。



また「平遥108種小吃」平遥で頂くことのできる108種類のご飯も有名です。私もほんの数種類をランチで頂いてきました。日本人にも食べやすい風味のお料理で美味でした。

平遥のシンボルである平遥古城は1370年に築かれたものです。その後、25回にわたる修復を受けながらも創建当時の姿を伝えているとされています。古城の写真を載せておきます。

先程、票号について少し触れました。この銀行の前身ともいう私的金融機関のうち、日昇昌（中国票号博物館）は1823年に創業した中国最初の票号ということです。日昇昌の建物を利用した展示は票号の栄枯盛衰の歴史を知ることができる場所です。日昇昌のエントランスの写真を載せておきます。

平遥古城のほぼ中央、明清街には市楼があります。3層構造の建築物です。創建年代は不明とされていますが、現在の建物は1688年に建てられたものということです。建物を眺めると長い年月を経ているものであるということは一目瞭然ですが、どこか華があり趣があり心がひかれるものです。

中国の歴史を垣間見ることのできる場所では、平遥古城は勿論のこと、どこを訪ねても本当に歴史の長さを実感します。

語学留学で滞在している中国山西省ですが、幾つかの名所を訪ね歩いてみて、中国語の他に中国の歴史に係る事柄を色々と学んでみたいと思う今日この頃です。観光名所では中国語と英語の説明書が多いですが、中国語で各地のことが理解できたら更に楽しみも広がるように感じています。そのためにも、日々の勉強は更に精進いたします。

